

2019年3・1ビキニデー集会参加の海外代表のプロフィール

2019年1月30日

日本原水協事務局 国際部

ビキニ事件の証人であるマーシャル被ばく者の声を世界に広げて活動

アバッカ・アンジャイン・マディソン (元上院議員、ロンゲラップ島民女性クラブ「イジュ・イン・エアン」代表)



ロンゲラップ環礁選出のマーシャル諸島共和国元上院議員。ロンゲラップ島は第五福竜丸と共に「死の灰」を浴びた島で、被爆した島民のたたかいを率いてきた故ジェトン・アンジャイン上院議員の娘。父と兄弟にあたるネルソンとジョンの遺志を受け継いで、被ばく者の正義と補償のための支援を訴えてきた。2017年核兵器禁止条約交渉会議に核被害者代表として参加し、条約成立に向け活躍。アメリカの圧力に屈せず、マーシャル諸島共和国の条約調印・批准を目指して精力的に活動している。2005年以来、3・1ビキニデー集会、原水爆禁止世界大会に何度も参加しているほか、2010年、2015年NPTニューヨーク行動にも参加。

朝鮮半島の平和と非核化をめざし、日韓両国民の共同と行動を呼びかける若き論客

イ・ジュンキュ (キョレハナ平和研究センター研究委員 韓国)



現在、韓国のNGOであるキョレハナ平和研究センターで北朝鮮問題、南北朝鮮関係と国際政治を専門に研究している。2003年から2010年までは、平和ネットワーク(NGO)の政策立案責任者を務めた。2008年から2009年にかけて日本の明治学院大学で研究。核関連問題、南北朝鮮関係、東アジアに関する国際政治について、Redian, PRESSIAN, Ohmynews, ハンギョレ 21などのインターネットメディアや時事雑誌、定期刊行物に数多くのコラムや記事を執筆してきた。民主労働党、新進歩党、緑の党など、韓国で生まれ

た革新系政党の政策作りに積極的に関わってきた。

世界大会にはこれまで何度も参加しており、2018年の3・1ビキニデーにも参加。朝鮮半島情勢の論客として、日本各地の講演に引っ張りだこ。今年日本原水協と韓国NGOが計画している日韓フォーラムの調整役も担っている。

トランプ政権に立ち向かうアメリカの核兵器廃絶運動のリーダー

ジョゼフ・ガソン（平和・軍縮・共通安全保障キャンペーン）



平和・軍縮・共通安全保障キャンペーンの議長。長年、アメリカフレンズ奉仕委員会の経済安全保障プログラム責任者をつとめ、現在、国際平和ビューロー副会長、平和と地球国際ネットワークの共同議長、反NATO／反戦争運動の運営委員で、「코리아・ネットワーク」に参加している。核兵器廃絶、大国間の緊張、在外米軍基地、国防支出問題に焦点を当てて米国の外交・軍事政策への平和で公正な代替案を組織し啓蒙している。「帝国と核兵器」などの著書があり、アトミック・サイエンティスト誌、ボストン・グローブほかに多くの記事が掲載されている。

れている。

1984 年以來、原水爆禁止世界大会と日本の反核平和・反基地運動との連携・協力を続けてきた。特にこの間、沖縄のたたかいへ国際的な連帯を結集している。現在、トランプ政権に抗してたたかうアメリカの核兵器廃絶運動で指導的な役割を果たし、2019 年・2020 年 NPT 国際行動の企画責任者として活動している。

NATO 加盟国の国会内で原爆展を開催

ゲディミナス・リムデイカ（医師・リトアニア緑の党）

1941 年生まれ。国立サピエガ病院の院長として、チェルノブイリ原発事故の汚染除去作業に動員され被ばくしたリトアニア人作業員のため、1991 年にチェルノブイリ医療センターを設立し、治療に従事した。1992 年に原水爆禁止世界大会に参加して、日本の反核平和運動、被爆者運動と交流を深め、日本の医療関係者の協力や日本での研修を通じて自国の被ばく者の救援に尽力した。2016 年春にはリトアニア国会でチェルノブイリ原発事故 30 周年の国際会議と「原爆と人間」展を主催。被爆者を含む日本原水協代表団が招待され、発言した。現在もリトアニアの主要都市や政府、国会を含む公共施設・学校などで原爆展の開催を続けている。

